

令和5年度 学力向上を図るための全体計画

おおさわ学園三鷹市立羽沢小学校

関係法規・市教委教育目標

- 学習指導要領総則
- 東京都教育委員会教育目標
- 三鷹市教育委員会学校教育の指導目標及び基本方針「基礎的・基本的な内容の確実な定着を図り…」

学校教育目標

楽しい学校
 ◎すすんで学ぶ子
 ◎思いやりのある子
 ◎元氣な子

児童の実態、期待される児童像

自然が豊かな地域に育っているため、動植物と積極的に関わることのできる児童が多い。家庭学習習慣が定着していない児童がいるため、家庭との連携を図り、主体的に学習に取り組み、生き生きと学校生活を送ることのできる児童を育む。

学力向上に関わる学校経営方針

- 「個別最適な学び」「協働的な学び」の一体的な充実
- 学園研究の充実
- 三鷹「学び」のスタンダードとおおさわ学園「家庭学習の手引き」の活用
- 地域の教育資源や人材の活用
- 基礎・基本の徹底・習熟
- 研修を通じた指導力の向上
- 中学年から教科担任制の実施

教科指導の重点

- 「三鷹「学び」のスタンダード」(学校版)を踏まえた学習指導の充実を各教科で図る。
- 中・高学年の社会科学と理科において、教科担任制を実施し、授業の質を高める。
- 地域、学区の自然や文化、人材を取り入れた体験的学習を通して、主体的・対話的に学ぼうとする意欲・態度や問題解決能力を養う。
- 学力調査などの分析結果から、個々の学力の傾向をとらえ、その児童にあった学習方法を踏まえた指導を行い学力の向上を図る。
- 「東京ベータシフト」を活用し、繰り返し課題に取り組みさせて基礎学力の定着を図る。
- 「個別化」「協働化」「探究化」の視点で学びの構造転換を図り、個別最適な学習活動を推進する。

本校が目指す「確かな学力」

本校では学習指導要領に示された基礎・基本を重視し、次の力を育成する。

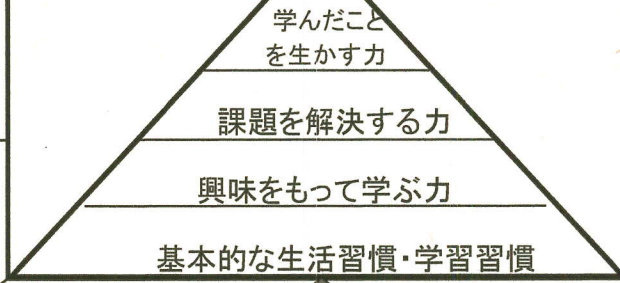
- 興味をもって学ぶ力
- 自ら考え、解決する力
- 学んだことを生かす力

道徳教育の指導の重点

- 道徳の時間において、教科書を使用して、話し合い活動や体験的な活動を取り入れた指導を行い、道徳的心情を豊かにし、道徳実践力が育まれるようにする。
- いじめ防止に関係する価値項目を各学期1回以上行い、生命尊重・思いやり、親切・友情・信頼等の精神を養うとともに、自尊感情・自己肯定感を高める。
- 道徳授業地区公開講座では、全学級が道徳授業を公開するとともに、保護者や地域の方々と道徳教育を考える場を充実させ、道徳教育を推進する。

総合的な学習の時間で身に付ける「学力」の重点

- 4年生での「地域安全マップ作り」及び「防災」の授業を総合的な学習の時間に位置付け、危機管理能力、防災意識を高める。
- 「ほたるの里」「野川」等の地域教材を活用することを通して、環境教育を推進する。
- 学習用タブレット端末を効果的に活用しながら、ICT教育、デジタル・シティズンシップ教育、キャリア・アントレプレナーシップ教育を推進し、問題解決能力、表現力、情報活用能力等を育成する。



特別活動の指導の重点

- 集団や自己の生活上の課題等を含み、役割を分担して活動し、集団生活の充実や自己の向上に向け合意形成を図ったり、意思決定したりすることができるようにする。
- 児童の発想や創意を生かして、たてわり班遊びや全校遠足の異学年交流を重視した児童会活動を推進し、集団の一員としての自覚と社会性を育てる。
- 学習として実施する「ふれあい交流」「部活動見学」「中学校授業見学」等を充実させ、学園への所属意識を育てる。
- 「キャリアパスポート」に年間を通して自分の目標と振り返りを書かせ、それを蓄積し、中学校へ引き継ぐことにより、生涯を通じての自己実現を目指し、自己有用感を育む。

進路指導の重点

「進路指導」の学園のカリキュラムに基づいた学習を通して、児童一人ひとりが将来への希望をもち、望ましい勤労観、職業観と生涯を通して学習を継続する意欲と態度を育てる。また、本校周辺の教育資源を生かし、ほたるの里三鷹村の田んぼで田植え、稲刈り、収穫祭や餅つきなどの米づくりに係る体験学習を取り入れ、農作物と人や自然、生命の繋がりを学ばせることにより古来からの日本の伝統と米作りに係る創意工夫、創造的な精神の育成を図る。

生活指導の重点

- 学園の児童・生徒の課題を分析して「おおさわ学園」年間のきまりを見直し、基本的な生活習慣の定着を図る。また、保護者との連携を強化して、あいさつ・禮儀・忘れ物などの基本的な生活習慣の定着を図る。
- 「学校いじめ防止基本方針」を基に、いじめ防止対策委員会が中心となりいじめ防止年間計画を策定し、いじめ防止にあたる。また、「学校いじめ防止基本方針」といじめ防止年間計画の研修と連携し、いじめ防止能力を育成するため、情報モラル教育を充実させるとともにセーフティ教室や薬物乱用防止教室を開催し、保護者に参観してもらうことで、家庭への啓発を図る。
- 全職員でアレルギー対策の方法と該当児童について共通理解を図り、児童の食の安全を守る。
- 「登校支援シート」を作成し、校内委員会において「A-R o m」等の外部機関との連携も視野に入れながら、長規欠席・不登校児童等の情報共有や対策を検討し実施する。

本校の授業改善に向けた視点				
指導内容・指導方法の工夫	教育課程編成上の工夫	校内研修・研究の工夫	評価活動の工夫	家庭や地域社会との連携の工夫
<ul style="list-style-type: none"> 基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得を図り、課題解決に必要な思考力・判断力等を育む。 主体的・対話的で深い学びを実現するために体験的な活動や問題解決的な学習を意図的・計画的に取り入れながら指導する。 ICTを活用してデジタル・シティズンシップを涵養しながら、多様な子どもたちが「誰一人取り残されないこと」を旨とする。 個に応じた個別指導、ペア・グループ学習、少人数授業の充実を図る。 言語活動を効果的に取り入れた授業づくりを実施する。 eライブラリを活用し、個の実態に応じた学びを繰り返し行うことで学習の定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 算数科において、第2学年以上は習熟度別少人数指導、第1学年においては2学期から習熟度別少人数指導を行う。 中・高学年の社会科学と理科において、教科担任制を実施する。 放課後、長期休業を利用した補充教室を実施する。 「おおさわ学園小・中一貫カリキュラム」に基づいた、計画的・継続的・系統的な指導を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 研究主題を「地域の方を学びに生かす」とし、地域資源を積極的に活用し、地域の方々との関わりや地域への発信を通して学びを生活に生かすことで、主体的・対話的で深い学びの実現を目指す。 低・中・高学年の分科会に分かれて検討を重ね、学びを生活に生かすことができるよう、小・中一貫カリキュラムを意識した意図的・計画的な実践を追究していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 評価規準の見直しや改善、評価・評定に関する保護者への説明を行う。 適正な評価のための研修会を実施する。 外部評価、外部アンケートの活用を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 「おおさわ学園カリキュラム」をもとに、地域の人財や施設を教育活動に活用していく。 コミュニティ・スクール委員会と連携し、教育ボランティア活用による授業の充実を図る。 地域に呼び掛けて新しい人材を発掘し、CSやPTA活動につなげていく。 家庭と連携して、個人に合わせて課題を設定することで、家庭学習の個別最適化と学習習慣の定着を図り、主体的に学ぶ意欲や態度を育む。